

ふりがな 氏名	ながい さとこ <b>永井 聡子</b>	都道府県	東京都	
所属/肩書	<b>大田区立大森第六中学校 / 教諭</b>			
関心・活動のSDGs	  			
私のESD活動	<b>公立中学校教員として生徒たちに「成長できる場」をつくること</b>			
<b>活動の概要</b>				
<p>勤務校はユネスコスクールであり、ESD の推進、SDGs達成に向けた教育活動を全教科・領域で行っている。授業やその他の活動で、生徒たちが「成長した」と実感し、「良い方向に変化、変容した」と思えるような授業展開を考え、カリキュラムデザインを構築しながら全教員で授業改善を行っている。授業以外の活動では、学校の取り組みとして、地域の方々との交流、国内外の様々な諸団体との交流、外部講師による出前授業、ACCUワークショップへの参加、洗足池における水質浄化プロジェクト、生徒のボランティア団体「農援隊」による活動、保健給食委員会を中心としたフードロス削減活動、景観まちづくり学習、まちなか点検、学校防災訓練など、生徒たちが様々な課題を「自分ごと」として考える機会を設けている。その中で私は、校内研修を推進する研修委員会に所属し、今年度は国立教育政策研究所研究指定校の1年目として研修を推進している。授業改善としては、「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、学習の導入の工夫や動機づけの工夫、単元や教材ごとの振り返り、ESD ルーブリックを用いて自己変容を捉えられるようにしている。次世代を担う生徒たちがそれぞれの場面でリーダーシップを発揮し、協働して成長していけるように、指導や助言を行っている。</p>				
<p>・大森第六中学校 HP <a href="https://www.ota-school.ed.jp/oomoridai6-js/">https://www.ota-school.ed.jp/oomoridai6-js/</a></p>				
<b>私が考える教育の未来像</b>				
<p>今、教育は大きく変わっている。自分自身が学生時代に受けていた講義形式の授業形態は最近ではあまり見られなくなり、主体的・対話的で深い学びを目指し、アクティブ・ラーニングを行っている。またプログラミング学習が導入されるなど、より実生活に即した実践的な学習が増えている。「何に役に立つかわからないけれどとりあえず勉強する」のではなく、明確な目標のために学ぶ機会が増えていくと感じる。そのような中でも、教育は人と人を繋げ、人を成長させ、生きる希望を与えるものだと考える。「環境が人をつくる」という言葉があるが、人々が希望をもち、生き生きと活躍できる社会をつくるため、教員として、教育を通じ生徒を育てていくことを通して、よりよい未来をつくっていききたいと思う。</p>				
<b>私の強み、活かせる経験やスキル</b>				
<p>教職に就いてから毎日中学生と接してきた。日常生活の中で生徒たちがどのようなことを感じ、考えているのかを、身近な大人の一人として、最も汲み取りやすい立場にあると感じる。生徒たちが社会に出た時に、持続可能な社会を作っていく大事な役割を担う基盤を日々の授業や生活で作っているという経験を元に、「成長」をキーワードにどのような活動ができるか、ESD を教科・領域にどのように繋げていくか、具体的な方法を様々な立場で活躍している参加者の方々と、一緒に考えていきたい。</p>				